（別紙２）

事業者別／稼ぎの場別整理

対象企業の分類		主な稼ぎの場		
		地域（Ｌ）	国内（Ｄ）	世界（Ｇ）
		地方は人口流出で市場規模は右肩下がり、基本的に高齢化も進むために消費構造も変化。	緩やかに市場規模が縮小してはいるものの、依然として1億人以上の、世界でも有数の可処分所得を持ち、高い目利き水準を持った大市場。	世界人口は右肩上がり、斑模様ながら可処分所得も向上。 それぞれの市場にもサプライヤーがおり、競争は激しいが、"Japan"にはブランド価値有る。
Ⅰ	ＧＮＴ企業 ・規模が相対的に小規模ながら世界で稼げる企業 ・状況次第では、大規模化への誘導も		C	
Ⅱ	自律的に成長ができる企業 ・地域経済の柱（雇用、納税、地域の価値創造） ・常に･･･さらなる飛躍を目指し ･･･新たな「稼ぎのタネ」のCradleを目指す		中規模事業者が主	
Ⅲ	自律的成長を目指す企業 ・「地域経済の柱」となる事を目指す ・構造解析の上、会社そのものか経営資源の有効活用を図る（場合によっては、社内資源を活かすために、退出の可能性も）	小規模事業者が主		
Ⅳ	地域経済の担い手の小規模事業者 ・市場原理だけでは持続困難だが、地域（過疎地・山間地等）の生活維持の柱 ・機会有ればそれ以上の活躍を目指す	A	B	